



1. 問題: 競技者は口や皮膚から、もしくは注射で体内に取り入れるものに関して、最終的な責任がある。

答え: ○

解説: すべての競技者は選手生命を危うくしないためにも、不明な点に対しては積極的に質問する必要があります。

薬品に関して疑問があれば、どんなことでも質問すること！

薬品の内容物が不明であったり、禁止物質が含まれているかどうか分からない場合には、口にしないうようにして下さい！

2. 問題: ドーピング検査の対象はオリンピック、パラリンピック、世界選手権に出場する競技者のみである。

答え: ×

解説: 大多数の国、また国際競技連盟では独自のアンチ・ドーピング・プログラムを実施しています。そのため、国内レベルの選手であっても、競技会時または、競技会以外の練習場や自宅などでも検査対象となり得ます。

3. 問題: WADA何の略でしょうか？

World Anti-Doping Administration /  World Anti-Doping Agency

答え:  World Anti-Doping Agency

解説: WADA(世界アンチ・ドーピング機構)の役割は、国際レベルでのスポーツにおけるドーピング撲滅をあらゆる方法で推進し、調整することです。

4. 問題: 競技会検査のドーピング検査対象に選ばれたことの通告を受けたら、1名の代理人とドーピング検査室に同行することが認められている。

答え: ○

解説: 競技者は1名の代理人とドーピング検査室に同行することが認められています。通常はチームドクターか、コーチが代理人となります。

代理人は検体採取以外のすべての工程を確認します。また競技者は必要に応じて通訳の同伴を求めることも可能です。

5. 問題: 自国で使用が認められている薬品は、同じブランドのものであれば海外で購入しても問題なく使用できる。

答え: ×

解説: 薬品によっては別の国で購入した場合、成分がわずかで異なる場合があります。場合によっては、禁止物質が使用されていることもあり得ます。

成分を必ず確認し、海外で購入した薬品を服用する際には、必ず担当の医師、チームドクター等に相談して下さい。

6. 問題: 競技者が1年間に受ける検査回数の上限は？

答え: 制限なし

解説: 競技会検査・競技中検査、ランダム・ターゲット検査について、一人の競技者が一年間に受ける検査の回数に制限はありません。

7. 問題: スポーツにおける禁止物質や方法の検出のための尿検体の分析は、設備の整った分析機関であればどこでも行うことができる。

答え: ×

解説: スポーツにおける禁止物質や方法の検出のための尿検体の分析は、WADAの厳格な基準を満たし、認定を受けた分析機関においてのみ行うことができます。

8. 問題: 栄養サプリメントは薬局で購入したものであれば、スポーツでも認められている。

答え: ×

解説: サプリメントの摂取は選手自身のリスク管理となります。多くのサプリメントは禁止物質を含んでいます。多くの国では、サプリメント製造会社は法の規制を受ける対象になっていないので、製品に何が含まれているか完全に確認し、把握することが重要です。

うまい話には必ずウラがあるものです。安易な方法・物質は多くの場合は禁止されています。サプリメントを摂取するのではなく、栄養管理プログラムを取り入れましょう。

9. 問題: 障害をもつ競技者は必要な薬であればどんな薬でも使用してよい。

答え: ×

解説: 障害のある競技者も同じ禁止リストを守らなければいけません。しかし、障害の性質により、特定の薬品が必要である場合は、IPC医事委員会か自国のアンチ・ドーピング機構にTUE(治療目的使用の適用措置)を申請することができます。TUEは審査を経て付与されます。

10. 問題: 検査対象となった競技者がドーピング陽性となることを避けるために他人の尿とすり替えることは容易である。

答え: ×

解説: 検査基準が遵守されていれば、競技者は検査通告を受けてから検査終了するまで常にドーピング・コントロール・オフィサーに付き添われることになります。

尿検体採取作業は常にドーピング・コントロール・オフィサーによって監視されており、尿検体の改ざんは非常に困難と言えます。

11. 問題: 風邪を引いていたり、インフルエンザにかかっているときは、治療の為にどのような薬をとることも許される。

答え: ×

解説 風邪を引いたり、インフルエンザにかかったり、花粉症になったときも、禁止物質が含まれていないことが確認できない限りどんな薬や物質もとってはいけません。これは市販の薬品であっても、担当医が処方する薬品でも同様です。陽性結果は陽性結果であり、どのような事情も考慮されません。

12. 問題: 陽性結果の出た競技者に禁止物質の摂取を勧めたり、その使用を援助したコーチもしくは担当医は、制裁の対象となる。

答え: ○

解説: 競技者に禁止物質や方法の使用を勧めたり、その使用を援助することは違反行為とみなされ制裁が課されます。

13. 問題: ドーピング・コントロール・オフィサーは到着数時間前に検査を行うことを競技者に通告しなければならない。

答え: ×

解説: 可能な限り、テストは通告なしで行われます。これはドーピング・コントロール・オフィサーはいつでもどこでも検査を行うことができることを意味しています。しかし、ドーピング・コントロール・オフィサーは競技者に不必要に迷惑をかけないために臨機応変に対応することが望まれます。

14. 問題: 一旦、検体が密封され、書類が完成した後に、開封しようとしたり、何かを混入させることを試みたり、検体に手を加えようとすれば、その形跡は明確に判別できる。

答え: ○

解説: 検体に手を加えられることがないことを確認して下さい。加えて、分析機関に疑わしい検体が到着した場合には、分析を行う前に報告を行うことになっています。

15. 問題: 競技者は忙しいという理由からドーピング検査を拒否することができる。

答え: ×

解説: ドーピング検査拒否は陽性結果と同様の制裁が課されます。もし通知されたときに競技者が検査を拒否する場合、通告書に拒否の理由を記入し、直ちに所属競技団体に報告しなければなりません。

16. 問題: 要請されれば、コーチはドーピング検査室に競技者と同行できる。

答え: ○

解説: 全ての競技者がドーピング検査室に代理人を同行する権限を有しています。

17. 問題: 検査の際、たとえサンプルキットが汚れていたり、手を加えられている様に見えても、最初に手に取ったサンプルキットを使わなければならない。他のサンプルキットと取り替えてもらうことはできない。

答え: ×

解説: 競技者にはサンプルキットの選択権が与えられています。もし最初に選んだサンプルキットが気に入らなければ、別のものに変えてもらうことを依頼すべきであり、その依頼は認められています。

18. 問題: 競技者は担当医に自分が競技者であり、ドーピング検査対象となりうる身であり、禁止物質を使ってはいけないことを伝えなければならない。

答え: ○

解説: 競技者の担当ドクターは、禁止リストに挙げられている物質以外の薬品を処方しなければならないということを知ることが大切です。もしこれが不可能である場合、薬を使用する前に国際競技連盟か、国内競技団体もしくは国内アンチ・ドーピング機関を通じてTUE(治療目的使用の適用措置)の申請をしなければなりません。この手順は緊急の場合にも適用されることを担当のドクターは知っておく必要があります。

19. 問題: もしも必要な尿検体の量を提出することができなければ、追加で血液検体の提出を求められる。

答え: ×

解説: 尿検体が必要な量に満たない場合、一旦、部分尿として封印、記録されます。

尿意を催すまで待った後、必要量に達するまで新たな尿検体を提出することになります。

20. 問題: 時には禁止物質を使っても勝たなければならない。

答え: ×

解説: 勝つために禁止物質を使ったとしても、バストを尽くしたとはいえ、勝利したとは言えません。不正行為は自分自身にとってもライバルにとってもスポーツ精神を損なうものです。

21. 問題: 何が含まれているかわからなくても、信賴している人からであれば薬をもらってもよい。

答え: ×

解説: 競技者は体内に入れるものについて常に把握していなければなりません。何か知られていないかを確認し、薬を取り除くことはドーピング検査で陽性となり、また健康が損なわれる可能性があります。

22. 問題: ドーピング・コントロール・オフィサーが競技者検査の為に自宅にやって来た場合、お茶を出すためにあなた一人で部屋出たり、一人でお使いにでかけたりすることが出来る。

答え: ×

解説: 検体の完全性を守るためにも常にドーピング・コントロール・オフィサーの視界にすることが重要です。もし部屋を出なければならぬ場合は、ドーピング・コントロール・オフィサーに事情を説明し、同行をしてもらうことになります。

23. 問題: 1週間前に競技外検査を受けていたら、次の検査までは数週間はある。

答え: ×

解説: 数週間の猶予があるかもしれないし、数日、数時間の可能性もあります。短期間に2回以上の検査をすることによって、不正行為を‘できる’と思わせない効果が期待できます。

24. 問題: チームドクターが薬を処方し、ドーピング検査で陽性になった場合は、担当のチームドクターの責任であり、競技者の責任は問われない。

答え: ×

解説: 担当チームドクターは、間違った助言を与え不適切な治療を行ったとして制裁の対象となる可能性があります。競技者が摂取するもしくは皮膚などに塗るものに関する最終的な責任は競技者自身にあります。

25. 問題: あなたもドーピング検査の対象となりうる。

答え: ○

解説: 国内トップレベルまたは、国際レベル選手として、任意抽選ではなく意図的にあなたの名前が検査対象者として選出されるかもしれません。これはドーピングをしていないということを証明する良い機会でもあります。

26. 問題: もしもドーピング・コントロール・オフィサーが身分証明証を持っていない場合、検査を拒否できる。

答え: ○

解説: ドーピング・コントロール・オフィサーは、ドーピング検査を行う正当な権限を有していること、及び認可された検査機関に所属していることを示す身分証明書を提示することを義務づけられています。もしこれらの提示が無い場合は、通告書にこの旨を記載し、署名のうえ、競技者用の控えを保管し、直ちに所属競技団体に連絡して下さい。

27. 問題: 分析機関では検体が誰のものか知ることができる。

答え: ×

解説: 分析機関に検体とともに送られる書類には競技者の個人情報を含まれていません。分析機関に伝えられる情報は、競技種目、大会名、性別、競技団体、検査日時のみです。

28. 問題: ドーピング検査を受けた際には、ドーピング・コントロール・オフィサーがすべての書類を所持し、競技者は後日控えを受け取る。

答え: ×

29. 問題: 休暇中は、居場所情報を提出する必要はない。

答え: ×

解説:  
競技者は休暇中でも、ドーピング検査が行われることになった場合に、ドーピング検査機関が連絡をとれるように居場所情報を提出しなければなりません。

30. 問題: 蛋白同化ステロイド (Anabolic

Steroids) はスポーツにおいて常に禁止されており、ほとんどの国では違法である。蛋白同化ステロイドの使用は以下のような副作用をもたらす:

a. 男性の女性化(女性的乳房)・女性の男性化

b. 肝臓疾患・心臓疾患

c. 暴力的興奮

d. 上記すべて

答え: d. 上記すべて

解説:

蛋白同化ステロイドは筋肉の増強作用がありますが、命に関わる副作用があることも確認されています。蛋白同化ステロイドの使用は、健康を害するだけでなく、競技者が自分の本来の能力を認識することなく、自分自身を騙していることとなります。

**31. 問題: TUE**

(治療目的使用の適用措置)によって、競技者は深刻な病状の治療として、禁止物質の使用を申請することができる。TUEは、禁止物質が健康に支障をきたさないこと、競技能力の強化が生じないこと、他に治療薬・方法がないことを条件に付与される。

TUEとは:

**A. Therapeutic Use Exemption**

**B. Therapeutic Use Equipment**

答え: A. Therapeutic Use Exemption

解説:

国際レベルの競技者は、国際競技連盟にTUEを提出する必要があります。国内レベルの選手は国内のアンチ・ドーピング機関に提出してください。TUEは、特定の物質とそれに定められた用量、及び決められた期間について付与されます。

**32. 問題: ヒト成長ホルモン(Human Growth Hormone:**

**hGH)**は骨の伸長や筋肉の成長で知られており、その使用はスポーツにおいて常に禁止されており、違反である。一般に知られているhGHの副作用は:

**a: 心臓血管疾患**

**b: 筋肉痛・関節痛 ; 臓器肥大**

**c: 糖尿病**

**d: 上記すべて**

答え: d: 上記すべて

解説: 現在ヒト成長ホルモン(Human Growth Hormone: hGH)は現在検査で検出することが可能です。

**33. 問題: 禁止物質リストには、どの物質・方法が競技会検査と競技外検査で禁止されているかが明記されている。**

答え: ○

解説:

禁止リストは毎年禁止リスト委員会で協議され、1月1日に最新版が発効します。すべての競技者は最新の情報を知っておく必要があります。最新のリストはWADAのホームページで手に入れることができます。 [www.wada-ama.org](http://www.wada-ama.org)

**34. 問題:**

競技者が誤って禁止物質を使用してしまった時に、すぐにドーピング検査員にそのことをつたえ、フォームに記載してもらえば、何の問題もない。

答え: ×

解説:

世界アンチ・ドーピング規程は厳格な信頼性のもと運用されており、もし禁止物質が競技者の体内から発見されたら、競技者は責任を取らなければなりません。

**35. 問題: インペイザイとはなんですか?**

**a. 競技者が禁止物質を使用するのを手伝う人**

**b. 禁止物質の使用を隠すために使われる物質、もしくは方法**

**c. 選手の代理人**

**d. ドーピング検査キットの蓋をくっつける粘着剤**

答え: b)

解説:

隠蔽剤とは、禁止物質の使用を隠すために、ドーピング検査の尿その他の検体を変化させる目的で使用される物質もしくは方法です。

**36. 問題:**

たとえ怪我のため競技に参加していなくても、所属団体がドーピング検査のために自分の居場所を知る必要があるかもしれないので、居場所情報を提出しなければならない。

答え: ○

解説:  
競技者として、たとえ怪我や病気で競技に参加していなくても、アンチ・ドーピング機関がいつでも、どこでも居場所を確認できるように居場所情報を提出しなければなりません。

**37. 問題:** 現在ヒト成長ホルモン(Human Growth Hormone: hGH)を検出する検査が存在する。

答え: ○

解説:  
2004年以来ヒト成長ホルモン検出のための血液検査が行われており、より多くの競技外および競技会検査で検査が実行されつつあります。

**38. 問題:** もしドーピング検査で血液が採取されたら、失神したり、気分が悪くなるかもしれない。

答え: ×

解説:  
血液検査では、ほんの少量の血液(リップスティックの量程度)が採取され、競技能力には問題がない量とされています。また、看護師や採血医など専門家が待機しており、相談を受け付けます。

**39. 問題:** ドーピング検査で尿検体を採取する際に、男性または女性いずれかのシャペロンが監視する。

答え: ×

解説: 検体採取を監視するシャペロンは必ず競技者と同性でなければなりません。

**40. 問題:** 競技者がドーピング検査の検体採取セッションに疑問がある場合は、いつ確認すれば良いのでしょうか?

- a. ドーピング検査後いつでも
- b. ドーピング検査中
- c. 世界アンチ・ドーピング機構に手紙を送る

答え: b. ドーピング検査中

解説:  
競技者はドーピング検査中にドーピング検査員に対して、気になることがあればいつでも質問してください。競技者には検体採取に関して知りたいことを知る権利があり、ドーピング検査がどのように行われたかに関して、気になる点があればそれを記録することが可能です。

**41. 問題:** 試合に参加していなくても、ドーピング検査の対象になる。

答え: ○

解説: チーム名簿に名前が載っていれば、実際に試合に参加したか否かに関わらず、ドーピング検査の対象になります。

**42. 問題:** 世界アンチ・ドーピング規程の目的はなんですか?

- a. 競技者の基本的な権利である、ドーピングのないスポーツに参加する権利を守るため
- b. 競技者の健康、公平さ、平等を推進するため
- c. 国際レベルでの調和のとれた、効率的なアンチ・ドーピング・プログラムを確保するため
- d. 上記のすべて

答え: d. 上記のすべて

解説: 世界アンチ・ドーピング規程は、スポーツにおける世界アンチ・ドーピング・プログラムの基礎となる普遍的な文書です。

**43. 問題:** ドーピング検査で陽性となった場合、競技者には以下の権利がある:

- a. B検体の分析
- b. B検体の開梱および分析に競技者本人もしくは代理人が同席できる
- c. 分析関連書類一式を請求できる
- d. 上記すべて

答え: d. 上記すべて

解説: 世界アンチ・ドーピング規程は競技者の権利が確保されることを目的としています。

44.

居場所情報を検査機関に提出することで、すべての競技者がドーピング検査の対象となり、平等な競技条件を確保することができる。

問題: 誰が居場所情報を閲覧できますか?

- a. 競技者の情報は公になり、一般の人も報道関係者も含め興味のある人は誰でも
- b. 一般の人や報道関係者は閲覧できませんが、アンチ・ドーピング機関で働いている人なら誰でも
- c. これらの情報は常に厳格な守秘義務のもと扱われ、アンチ・ドーピング機関の検査立案担当者だけ閲覧できる
- d. 上記のいずれでもない

答え: c

解説:

すべての居場所情報は厳格な守秘義務によって守られ、ドーピング検査のためだけに利用されます。関連のなくなった情報はすべて破棄されます。

45. 問題: どれくらいの頻度で禁止物質リストは改訂されますか?

- a. 毎月
- b. 毎年
- c. オリンピック・パラリンピックの前
- d. 改訂されない

答え: b. 毎年

解説:

禁止物質リストは毎年禁止リスト委員会で協議され、1月1日に最新版が発効します。すべての競技者は最新の情報を知っておく必要があります。最新のリストはWADAのホームページで手に入れることができます。 [www.wada-ama.org](http://www.wada-ama.org)

解説: 検本を提出し、公式記録書への記入が終了したら、ドーピング・コントロール・オフィサーは公式記録書と通告書の控えを競技者に渡さなければなりません。競技者はそれらの書類を自身の記録として大切に保管する必要があります。